みんなの広場

はっらつ ところ 野老っ子

子どもたちの輝く姿を求め続けて…

三浦　茂樹さん
（こぶし町在住）

「子どもはダイヤの原石。関わり方次第で変わります。それが魅力のひとつです」と語る三浦さん。

内閣府が行う『平成16年度善行青少年及び青少年健全育成功労者・善行青少年の部』の表彰で、子ども会のリーダーである中高生への幅広い指導が評価され、県内でただ1人受章されました。

子ども会との出会いは小学3年生。その後、多彩な活動を繰り広げ、高校時代は理想の子ども会を目指し、クラブを創設しました。

大学入学後は、野外活動センターでのキャンプ指導、市内の公民館や児童館での活動と忙しい日々。そこには、常に自分の理想を求める姿がありました。リーダー支援グループの実行委員や役員となって多くを学び、リーダーの高校生が輝けば、ついていく子どもたちも輝くということを確信。その高校生が信念を持って行動するきっかけづくりが、自分の役目であると感じました。

現在は、外から見つめ直すという姿勢で、県のグループで活動しています。常に、地域へ還元することを忘れてはいません。

「子どもたちの土産話となる活動を取り入れたい」。実は、小学生のときに参加したキャンプで、リーダーの高校生が歌う姿、まとめる姿を見て鳥肌が立ったことがあったそうです。「格好よかった」と語る中に、自分も魅力的な人間となり、感銘を与えたいという思いがあるのです。

今は好奇心旺盛な三浦さんですが、少年時代は内向的だったとか。それを覆したのは、高校2年生のときにジュニア・リーダーズクラブの会長を務めたこと。多方面に目を向けるようになり、内向的な部分が消え、自信がついたそうです。その経験からも、子どもたちには仲間とのコミュニケーションを大切にして、多くの人と接してほしいと願っています。

「子どもはそれぞれ違います。その子にあった関わり方が大切です。関わり方を間違えるとダイヤは崩れるのです」。幹細胞研究の仕事のかたわら、その関わり方を後輩へ引き継いでいる先輩の三浦さん。以前、ご自身が先輩から引き継いだように…。

後輩への指導風景

▶消防活動訓練等を披露する「消防出初式」。所沢鳶職組合の皆さんによる伝統のはしご乗りも見事！
1月7日㈮／所沢航空記念公園

TOKOROZAWA ものしり ウォーキング 57

上山口・徳川家ゆかりの門

不動寺

「台徳院」は徳川幕府第2代将軍徳川秀忠の院号です。3つの門はその霊廟を構成していた建造物で、いずれも芝（東京都港区）の増上寺にあったものです。

増上寺は、上野の寛永寺とともに徳川家の霊廟がある寺院で、台徳院、文昭院（6代家宣）・有章院（7代家継）といった歴代将軍の霊廟のほか、桂昌院（5代綱吉の生母）・清揚院（6代家宣の父甲府宰相綱重）などの霊廟もありました。

これらは増上寺の北側にありましたが、昭和20年の東京大空襲でそのほとんどを焼失し、わずかに台徳院霊廟の惣門、勅額門、丁子門、御成門だけが戦災を免れました。戦後、その場所が買収されたことにより、3つの門が昭和38年にユネスコ村に移築されました。その後、不動寺が同地に建立され、その管轄となりました。

ところで、台徳院霊廟の一連の建造物は寛永9年（1632）、第3代将軍家光によって建てられたもので、昭和5年に指定を受けました。戦災を免れた3つの門については、勅額門が同霊廟の入口の門で、名称は御水尾天皇から勅額を賜わったことにちなみます。丁子門は秀忠の霊所の通用門でした。御成門は、将軍家参拝の際にお迎えするための門です。いずれも江戸時代初期の霊廟建築の様式を伝える貴重な建造物です。

実は、これらの建造物が移築された際、同時に多数の灯籠も運び込まれました。それらの灯籠は、日本全国の諸大名が徳川家の霊廟に奉納したものです。灯籠は、現在の西武第2球場の場所に所狭しと置かれていました。

その後、西武ライオンズ球団が所沢に来ることが決まった際に、近隣の寺社に寄進されました。現在も、そのときの灯籠が周辺寺社をはじめ、市内各所に残されています。

かつて、芝の増上寺にあった徳川家ゆかりの建造物や灯籠は、今は所沢とその周辺に落ち着いているのです。

勅額門

▶1年を象徴する漢字として「災」が選ばれた昨年。今年は、皆さんにとってよい年でありますように…。
1月5日㈬／久米水天宮

街かど ズームイン

▶皆さんからの「街かどズームイン」情報を募集▶採用者には事前に連絡します▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内で▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「同窓会」▶皆さんは、旧友といつ会いましたか▶会えば昔の自分がそこに…▶同窓会は懐かしさ体験ツアー▶皆さんの同窓会にまつわる話をお寄せください▶締め切りは2月4日㈮必着▶住所・氏名・年齢・電話番号を明記▶送り先：〒359-8501・並木1-1-1 所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係

▶まゆや農作物の豊作を祈る「まゆ玉まつり」。紅白のだんごやみかんを、木の枝に飾りました。
1月8日㈯／柳瀬公民館

小さイク小 ふれあい館「エコロ」不用品ガイド

●**譲ります**　▷マウンテンバイク▷スキー板▷電子オルガン▷冷蔵庫▷鍵盤付きハーモニカ▷スキーウェア▷電子レンジ▷食器棚▷オイルヒーター▷餅つき機▷ランドセル（赤）

●**求めます**　▷プリンター付きワープロ▷コピー付きファクシミリ▷工業用ミシン▷ロックミシン▷洋裁用ボディ▷自転車（26インチ）▷津軽三味線▷卓上ミシン▷二段ベッド▷掃除機▷編み機▷全自動洗濯機（小型）

◎登録翌月の初旬に内容を館内に展示しています。また、市ホームページ（アドレスは表紙参照）にも掲載していますのでご利用ください。

休館日　月曜日、祝休日

申し込み・問い合わせ　リサイクルふれあい館（☎2994-5374・FAX2994-1118）

とことこ 町内会めぐり

【美原町町会】
～盆踊り！踊らにゃソンソン！～

美原町町会は、新所沢駅東口から徒歩約5分のところに位置し、通勤・通学にとても便利な場所です。そのため、他地区からの居住希望者が多く、現在2,330にもなる世帯数ですが、まだまだ増えると思います。

平成14年には、町会創立40周年記念式典が開催され、町会に功績のある方や尽力された方90人に、賞状と記念品を贈呈しました。

町会の1番大きな行事といえば、8月初旬に行われる盆踊り大会で、はっぴ姿の子どもたちが神輿をかつぎます。役員による模擬店コーナーもあり、一層のにぎわいを見せます。

そして11月には、日帰りバス旅行があります。行き先をどこにするか、とても苦労しますが、2番目に大きな行事となっています。また、敬老の日には対象者全員にささやかな贈り物をしています。

美原町盆踊り大会

さらに、毎週土曜日は美原小学校体育館を土曜開放の日とし、役員が主体となって協力いただける方々とともに、子どもたちが自由に遊べる場としています。また、クリスマスにはサンタクロースに扮して、子どもたちにプレゼントを贈るなど、児童の健全育成を図る活動も行っています。

当町会には、昨年の秋に国体の会場となった市民体育館が近くにあり、利用もしやすく、今後も、ますます発展する町会と信じています。

誰でもエッセイ

テーマ　ボランティア

いつでもどこでも

南住吉・宮下広子

「ボランティアするよりも、家の中のことをちゃんとしなきゃ」と、妹によく言われる。片づけや掃除もそこそこに、あちこち出かけていく私は、自分でも『ダメな母親だなあ』と思うときがある。

あるとき、テレビでこんなことを言っている人がいた。「ボランティアって、いつでもどこでも、だれでもやっていいんだよ。家事や育児が完璧にできなくても、人づきあいが苦手でも、もっと気軽に考えていいんだよ」と。『そんなあなたでも続けていきなさい』と、背中を押された気がした。

世の中にはいろいろな人がいて、人の喜ぶ顔を見ることが好きな人がいてもいいのかもしれない。でも、家の中のことも頑張り、家族の喜ぶ顔を見よう！

毎日を笑顔で

久米・柳橋コト

小学生時代、戦地の兵隊さんに慰問袋を作った。慰問文を書いたり、イナゴをとって供出の手伝いをしたりした。これがボランティアの始まりだろうか。

これまでに、PTAの役員、自治会の手伝い、老人ホームの慰問、公民館行事の手伝い、けいこ事の当番など、積極的にできたことを喜ぶ。

自転車に乗って飛び回ることが難しくなった今、私は笑顔をつくることにした。「あの人が来ると周りの雰囲気が楽しくなるよ」と言われるように努め、人の話しをじっくり聞くことにしている。悩みを持つ人たちは、それだけで元気になる。それが、今の私にできるたったひとつのボランティアである。

楽しみながら…

日吉町・吉野富子

ボランティアに関わって17年近くがたちます。最初は、ボランティアグループで、自分たちが作った布のおもちゃを使って、障害のある子どもたちと遊ぶことから始めました。

今は、各施設の製品づくりをするボランティアをしています。施設の方が型染めした ふきんに、ミシンをかけ製品にします。できあがった製品を見て、「偉いね、偉いね」と自分で言いながら ニコニコしたり、得意げに見せたりと、みんな熱心に取り組んでいます。びっくりするようなスウェーデン刺しゅうもあります。

施設からだけではなく、障害のある方からの依頼もあり、私たちも楽しみながら手伝いをしています。古希を過ぎ、視力も落ちてきましたが、もう少し頑張ってボランティアをしていきたいと思っています。

気が付けば自分のために

若狭・西田富子

点訳ボランティアを始めて丸13年になります。最初は、おこがましくも、視力に障害のある方に「点訳をしてあげる」と思っていました。でも今は、「させていただいている」という思いのほうが強い気がしています。多分、ほかの方々もそうだと思うのですが…。

点訳が、パソコンに触れるきっかけを作ってくれました。また、私の趣味とは異なるジャンルの本を読む機会も与えてくれました。辞書を引くことも、苦にならなくなりました。

そして何より、明るく前向きに生きる障害者をはじめ、多くの方と出会えたことが、ボランティアとしての喜びです。これからも充実した日々を送ることができるよう、自分自身のために続けていきたいと思っています。

配　食

西住吉・新井清子

「こんにちは、お弁当です。お変わりありませんか？」などと言いながら、私は1人暮らしのお年寄りの方（私も高齢者の仲間ですが…）に、お弁当を配達しています。

配達する日を忘れてしまっては大変です。カレンダーに赤マジックで印をつけ、前日に配達用のカバンを目立つところに置いておきます。

雨の日や風が強い日もありましたが、「ありがとう」の言葉に励まされたり、栄養バランスのとれたお弁当を作る方々や大勢のボランティアの仲間に支えられたりして、小さな人助けに協力させていただいています。いずれ私も、お世話になるかもしれませんが…。

輪と和

山口・長瀬弘子

ボランティアを楽しくしています。月に1回、30人ぐらい集まる会のお手伝いです。おしゃべりや歌とゲームで、2時間楽しく過ごしています。

平均70歳ぐらいの人たちばかりですが、いつまでも元気に暮らすことを考えながら楽しく活動していて、体によい体操に喜んでいます。

体調が悪い人に電話をする配慮など、ボランティアを通して勉強になることもあります。また、小学生とのおしゃべりタイムもあり、楽しくて若返る気分です。ボランティアは輪と和で『○』です。

――次回のテーマは「同窓会」です――